

marie claire

marieclairejapon.com

30th April, 2026
No.208



Future
Heritage

継承に宿る革新

本サービスを利用した営利目的の活動行為、
あるいは本サービスを通じて入手した情報を
複製、販売、出版その他
私的利用の範囲を超えて使用する行為の
一切を禁止します。

皆

さま、はじめまして。今月より、『marie claire』および『marie claire digital』の編集長に就任しました阿部はるひです。歴史あるメディアを担うこととなり、重責への緊張感もありますが、これから読者の皆さまと新たな“旅”をご一緒できることを大変楽しみにしております。

この機会に、改めて『marie claire』の歴史を振り返ってみましょう。創刊は1937年のパリ。当時、もっとも影響力があったとされる夕刊大衆紙『パリ・ソワール』紙と写真週刊誌『パリ・マッチ』誌の創始者であり、繊維業・毛織物業の実業家でもあったジャン・ブルーヴォによって創刊されました。創刊号は50万部を売り上げ、ニューススタンドでは殺到する人々による混乱で警察が出動する事態になるほどだったとか。第二次世界大戦の始まった1939年には、発行部数はほぼ100万部に達します。

当初は週刊誌だった『marie claire』は、時代を先取りしたメディアとして注目を集め、ファッションやビューティの最新情報をピックアップするだけでなく、女性による女性のためのジャーナリスティックな視点を大切にしました。“女性のバイブル”としてあらゆる年齢、あらゆる階層の女性に語りかけることを目指し、当時としては稀な社会的平等の理念を掲げたのです。

創刊時のミッションは、「上質で妥協のない、美の追求。ファッションを一過性の流行ではなく、文化の域へ」。これはまさに、いまの時代における「ラグジュアリー」の概念にフィットするものではないかと思えます。ファッションを単なる贅沢や消費ではなく、カルチャーの文脈で捉え、そこに秘められた物語や価値を伝えていくこと。そして、本質的な「美しさ」を見極め、人生を心豊かに過ごすためのインスピレーションをお届けすること。その思いはこれからも継承していきます。

ここで、前述の「美しさ」について考えてみたいと思います。AIが急速に進化し、瞬時に完璧に近い画像や動画が生み出され、SNSをはじめとして真贋見分けがたい投稿が蔓延している現在。可愛い動物や子供の動画などは、たとえ生成AIによるものだと分かっても感動してしまうことがあります。それはもちろん悪いことではないでしょうが、人間の感情や美意識とは何なのかと少し怖くもなります。膨大な情報とさまざまな価値観が入り乱れるなかで、自分らしく心豊かに生きるのなかなか難儀な時代となりました。そんな今、改めて大切にしたいのは、「美しさ」を見出す力を養い、自分軸とすることではないでしょうか。

先日、数学のノーベル賞といわれるアーベル賞を日本人で初めて受賞された京都大学数理解析研究所の特任教授の柏原正樹氏と、サイエンスライターの吉成真由美氏の対談動画を見ました。正直なところ、教授の研究内容については専門的すぎて理解が追いつかなかったのですが、“数学の美しさとは何か”というお話が非常に印象的でした。

吉成氏が紹介したのは、20世紀前半のイギリスを代表する数学者であるゴッドfrey・ハロルド・ハーディ(G.H. Hardy)の書いたエッセイです。彼は数学を芸術として捉え、絵画や詩、音楽といったものと同じようにその美しさと内容の重さがその価値を決める。数学者の作る様式は画家や詩人の様式と同様に美しくなくてはならないという考え方です。

また、柏原教授は、数学が美術と似ている部分もあると語り、世界的数学者で文化勲章を受章している岡

潔氏の言葉についても言及しています。それは、数学は論理的であるだけでなく情緒が大事であり、人の心が分かるような感性が重要だというものでした。数学といえば完膚なき定理と計算がすべてで、むしろAI領域の真骨頂のように思っていますが、真逆ともいえる“美の追求”や“感性”こそが世界を知る手がかりになるのだと、しみじみと感動しました。

さて、『marie claire』創刊の歴史に話を戻すと、1982年、フランス国外で初めて創刊されたのが日本版

です。日本ならではの美意識を取り入れながら、さまざまな形式でメディアの哲学や視点をお届けしてきました。今後はデジタル版『marie claire digital』と連動した企画も発信していきますのでご期待ください。

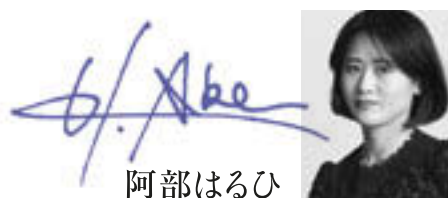
昨年スタートしたメンバーシップ「le salon de marie claire」でもスペシャルなイベントを企画中です。直接皆さまとお会いしてコミュニケーションできる機会を増やし、それぞれの美の視点をシェアできたら嬉しく思います。

私たち『marie claire』と一緒に、世界を読み解く「美しさ」を見つけていきましょう!

2026年4月30日



「marie claire」1954年10月号の表紙より。ストーリー性のあるビジュアルが目を引く



阿部はるひ
Haruhi Abe, marie claire 編集長

Contents

- 7 Welcome to marie claire /
- 8 Cover Story: Somegoro Ichikawa /
- 14 Saison Haute /
- 19 Style Picks: Crafted Summer /
- 20 HARRY WINSTON /
- 21 News /
- 22 Traditional Crafts: The New Craft of Luxury /
- 25 JTB /
- 26 Tourism Section Embassy of Spain /
- 28 Beauty: Hair care habits /
- 30 TAIWAN /
- 31 News, shop list

cover

photo: Yoshiyuki Nagatomo
styling: Nao Nakanishi
hair & make-up: Azusa Katsuragawa
direction: Satoko Hatakeyama
bangle, ring: BOUCHERON
jacket, shirt, knit: BOTTEGA VENETA

marie claire

2026年4月30日発行 第15巻 第4号(通巻208号)

発行人 Publisher:
安部順一 Junichi Abe

編集長 Editor in Chief:
阿部はるひ Haruhi Abe

Executive Advisor, Global Affairs:
田居克人 Katsuto Tai

Senior Advisor:
宮智 泉 Izumi Miyachi

アートディレクター Art Director:
木村裕治 Yuji Kimura

ビジネス スペシャリスト Business Specialist:
斉賀明宏 Akihiro Saiga

副編集長 Deputy editor:
大林理子 Riko Obayashi

編集部 Editorial Team:
高波麻奈美 Manami Takanami
岩崎芽衣 Mei Iwasaki

パリ特派員 Paris Correspondent:
須山佳子 Keiko Suyama

デザイン Design:
木村裕治 Yuji Kimura
佐藤 幹 Miki Sato

発行 Publication:
読売新聞東京本社
〒100-8035 東京都千代田区大手町1-7-1
tel: 03-3216-8815
THE YOMIURI SHIMBUN

印刷 Printing:
共同印刷
KYODO PRINTING CO.,LTD.

MARIE CLAIRE INTERNATIONAL

Executive Director:
Jean de Boisdeffre
International Deputy & Finance Director:
Felix Droissart
International Brand Director:
Nicia Rodwell
Chief Content Officer:
Galía Loupan
Chief Digital Officer:
David Jullien
International Fashion & Beauty Chief Editor:
Florence Deladrière
Senior International Brand Manager:
Céline Hananel
International Editorial Coordinator:
Marie Bazin
Global Partnerships / Media solutions:
Magali Riboud (Agence Riboud)
Foreign right Commercial:
Thibaud le Pailh
Licensing Manager:
Stephanie Ertzbischoff
Iconographer- Photo library:
Isabelle Teboul

©MARIE CLAIRE ALBUM 2026
©THE YOMIURI SHIMBUN 2026
本誌掲載の記事・写真、イラストの無断転載を禁じます。
※本誌に掲載されている商品の価格は
特記されている場合をのぞき、すべて税込みです。

牡牛座taurus 4月20日→5月20日★心地よさの基準を選定し直す月。5月17日の新月は安心してできる環境の中から無理のない範囲で人間関係、習慣、持ち物を吟味していく最適な時期。自分に相応しいものを見極めて。

牡羊座aries 3月21日→4月19日★新しいことを始めるよりも既にあるものを続けることに焦点を当てる月。焦りからくる早急な判断には注意して、丁寧に関わることで今後芽が出る美りの元を育てていく予感。





(P8-9) “キャトル”は、メゾンに継承される4つのコードを組み合わせたアイコンックなコレクション。モトーンの輝きがピュアホワイトのタキシードスタイルに、クールな華やぎと洗練を添えて。“キャトル ラディアント”ペンダント[WG×ブラックPVD×ダイヤモンド]¥973,500 ハングル[WG×ブラックPVD×ダイヤモンド]¥3,484,800(右手)リング[WG×ダイヤモンド]¥3,260,400 “キャトル ブラック”(左手)リング[WG×ブラックPVD×ダイヤモンド]¥775,500[すべて予定価格](すべてブシュロン/ブシュロン クライアントサービス) ジャケット[参考商品] Tシャツ¥66,000(ともにプリーオーニ/プリーオーニ クライアントサービス)
 (Cover) “キャトル クラシック”ハングル[YG×PG×WG×ブラウンPVD×ダイヤモンド]¥8,580,000(人差し指)リング[YG×PG×WG×ブラウンPVD×ダイヤモンド]¥1,768,800(小指)リング[YG×PG×WG×ブラウンPVD×ダイヤモンド]¥720,500[すべて予定価格](すべてブシュロン/ブシュロン クライアントサービス) ジャケット¥599,500 シヤツ¥92,400[参考価格] 肩にかけたニット¥300,300(すべてポッテガ・ヴェネタ/ポッテガ・ヴェネタ ジャパン)



Somegoro Ichikawa
 舞台『ハムレット』への挑戦
 市川染五郎、解き放たれる肖像

伝統を背負いつつ、新たな表現へと歩みを進める歌舞伎俳優・市川染五郎。祖父・松本白鸚、父・松本幸四郎が演じた舞台『ハムレット』に挑むいま、内に秘めた繊細さと強さは静かに解放され、しなやかに変化していく。同じく、創業以来、既成概念に捉われず、革新をもたらし続けてきたバリエーションのハイジュエリーメゾン「ブシュロン」。厳選されたジュエリーは彼の傍らで共鳴し、新たな肖像に輝きを添える。

photos: Yoshiyuki Nagatomo
 styling: Nao Nakanishi
 hair & make-up: Azusa Katsuragawa
 direction: Satoko Hatakeyama

WG=ホワイトゴールド、PG=ピンクゴールド、YG=イエローゴールド



孔雀の羽根に着想を得た“プリムドゥ
ハオン”もまた、130年以上にわたり
メゾンに継承されてきたモチーフ。躍動
感と生命力を宿す稀有な逸品が、若き
表現者の静謐な佇まいに映える。“プリ
ムドゥ ハオン”ペンダント [WG×ダイ
ヤモンド] ¥1,082,400 (右手)リング
[WG×ダイヤモンド] ¥2,653,200 (左
手)リング [WG×ダイヤモンド] ¥
8,118,000 [すべて予定価格] (すべ
てプッシュロン/プッシュロン クライアントサ
ービス) ニット ¥147,500 パンツ ¥
170,500 (ともにプリオ-ニ/プリオ-
ニ クライアントサービス)



積み重ねた伝統に宿る新しい息吹 “今を生きる”ハムレットへ Somegoro Ichikawa

interview & text: Sakura Fujino



シェイクスピア四大悲劇の一つとして、人間の苦悩を深く描いてきた『ハムレット』。葛藤、狂気、裏切りが絡み合う普遍的テーマを内包するこの傑作に、2026年、新たな息吹が宿る。ハムレットを演じるのは、新時代の歌舞伎俳優・市川染五郎。祖父・松本白鸚、父・松本幸四郎も演じた大役に、ストレートプレイ(会話劇)初出演・初主演で挑む。演出は、リアルを追求し、生と死、過去と現在といった相反する要素を繊細に描くデヴィッド・ルヴォー。多彩なキャストとともに、新たな『ハムレット』が幕を開ける。

舞台『ハムレット』
作: ウィリアム・シェイクスピア
演出: デヴィッド・ルヴォー
翻訳: 松岡和子
出演: 市川染五郎、
當真あみ、石川凌雅、横山賀三、
梶原善、柚香光、石黒賢 ほか
【公演情報】
東京 5月9日(土)～5月30日(土)
会場: 日生劇場
大阪 6月5日(金)～6月14日(日)
会場: SkyシアターMBS
愛知 6月20日(土)、6月21日(日)
会場: 名古屋文理大学文化フォーラム
(稲沢市民会館)大ホール

企画: 梅田芸術劇場
主催・製作: 松竹・梅田芸術劇場
協賛: ブリュロン ジャパン
愛知公演 主催: メ〜テレ・メ〜テレ事業、
共催: (一財)稲沢市文化振興財団
公式サイト: <http://hamlet2026.jp/>
公式Xアカウント: @hamlet2026

『ハムレット』という作品をいつから意識していましたか?
高麗屋(柴五郎さんの家の屋号)は翻訳物にも積極的なので、いつかは通る道だと自然に考えていましたね。もちろん代々やってきたからといって簡単にできる作品ではないですし、ひとつひとつ丁寧に取り組むのは他の作品と同じ。お客様が観て「今そこに生きている」と感じられる『ハムレット』をお見せしたいです。

劇中のエルシノア城のモデルになった、デンマークのクロンボ一城にも行かれたとか。
『ハムレット』はフィクションですが、歴史の重みを感じる場所に立ったことで、「ハムレットはこういう空間に住んでいたんだ」というのを実感でき、不思議な感覚になりました。中庭を囲むような建物の造りや、階段が螺旋階段ばかりというのもすごく面白くて。実際に行かなければ分からなかったことが多くて、とても勉強になりました。

白鸚さんからは、指輪を譲り受けたそうですね。
祖父は歌舞伎以外の作品にも多く出ているので、小道具としてアンティークのアクセサリをたくさん持っているんです。2、3年前に突然、「欲しい指輪があったら持って行っていいよ」と言われてサイズがぴったりなものを2つ選びました。そのひとつが今回着けようと思っている指輪。「それはハムレットを演じていた時に着けていたんだよ」と聞いて不思議な巡り合わせを感じました。

普段、役を演じる時、装飾品にはこだわるほうですか?
そうですね。装飾品に限らず衣裳も、祖父が着けていたとか、先輩のどなたかが着ていたとか、そういった物には特別な力があると感じています。特に歌舞伎は自分で化粧もしますし、装飾品なども含めてビジュアル面を役に近づけていく時間はとても大切。だからそれらを身に着けることも、役に入る大事な要素だと感じていますね。

今回、本誌での撮影では「ブリュロン」のジュエリーを身に着けられましたが、どんな印象を持ちましたか?
どれもデザインに奥行きを感じて、ジュエリーの中に無限の空間があるような佇まいに惹かれました。上品だけれど重厚感があって、でも主張しすぎない。そこがすごく素敵だなと身に着けてみて一番気に入ったのは、矢をモチーフにした“フレ

シュ”のペンダント。繊細さの中にも強さを感じるところが好きです。孔雀の羽根がモチーフの“ブリュム ドゥ パオン”もいいですね。触ると分かるんですが、デザインの部分が本当の羽根のようにしなるんです。そういう、実際に着けてみないと分からないような工夫がされているところにも、心を動かされました。身に着けるだけでなく、ひとつの芸術作品としても楽しむことができるのが「ブリュロン」のジュエリーの魅力だと思います。

昨年バリのヴァンドーム広場本店で、アトリエも見学されましたね。
職人さんたちの仕事ぶりが素晴らしく、思わず見入ってしまいました。若い職人さんも予想よりずっと多かったですね。僕は役者もある意味、職人に近いと思っていますので、年齢の近い職人さんたちがアトリエで“仕事”に静かに向き合っている空間がとても心地よく、その姿に刺激を受けました。スケジュールの都合で少ししかいられなかったのですが、本当は1日ぐらい見学していたかったです(笑)。

「ブリュロン」は伝統を大切にしつつ、モダンで大胆なデザインや最先端の技術を使ったコレクションもあります。“伝統と革新”は歌舞伎俳優がしばしば触れるテーマですね。
僕も、歌舞伎は古いものをただ受け継ぐだけじゃなくて、受け取った次の世代がどう工夫をしてその時代に残していくか、それをまた次の世代にどうやって渡していくかが大切だと思っています。だからバリのアトリエを拝見した時に、長い年月を積み重ねて出来たものの一方で新しい空気が流れている部分にも共感しましたし、そこが歌舞伎と似ているなと感じました。シェイクスピア作品も同じで、どうやって現代のお客様の心に届けられるかというのが、一番の課題。そのためにはハムレットという人間がどんな状況でどう決断をしていくのか、その心の過程が見えるようにしたい。そこはきちんと意識して演じたいなと思っています。

市川染五郎
2005年3月27日生まれ。
松本幸四郎の長男。祖父は松本白鸚。
07年6月歌舞伎座『侠客春雨傘』で初お目見得。
09年6月歌舞伎座『門出祝寿連獅子』で
四代目松本金太郎を名乗り初舞台。
18年1・2月歌舞伎座で八代目市川染五郎を襲名。
近年の主な歌舞伎出演作に、『源氏物語』(24年)、
歌舞伎NEXT『籠の森に棲む鬼』(24・25年)、
『木挽町のあだ討ち』(25年)ほか。
映画『レジェンド&バタフライ』(23年)、
『鬼平犯科帳 血闘』(24年)、
大河ドラマ『鎌倉殿の13人』(22年)、
PrimeVideo「人間標本」(25年)ほか
映像作品にも数々出演し、
『レジェンド&バタフライ』では
第47回日本アカデミー賞
新人俳優賞を受賞。

意志と覚悟の象徴として、歌舞伎十八番にも通じる「矢」のモチーフ。シャープなフォルムにダイヤモンドの輝きをちりばめた“フレッシュ”は、その力強い軌道に、時代を超えて受け継がれる伝統への思いと、未来への意志を描き出す。“フレッシュ”ペンダント [WG×ダイヤモンド] ¥2,270,400 バングル [WG×ダイヤモンド] ¥5,676,000 リング [WG×ダイヤモンド] ¥1,834,800 [すべて予定価格] (すべてブリュロン/ブリュロンクライアントサービス) レザージャケット ¥959,200 Tシャツ ¥71,500 [参考価格] (ともにポッテガ・ヴェネタ/ポッテガ・ヴェネタ ジャパン)





メソンのコードであるツイードをモダンに再解釈したジャケットが圧倒的な存在感を演出。エキゾチックなストライプを描く鮮やかな色彩とユニークなテクスチャーが唯一無二のスタイルを紡ぎ出す。ジャケット、スカート、イヤリング [すべて参考商品] (すべてシャネル/シャネル カスタマー ケア センター)

Saison Haute

季節が輝く、その最も美しい瞬間

光がほどけるように、装いも軽やかに解き放たれる季節。異なる素材や色、ボリュームを自由に重ねて意外性のある組み合わせが響き合う。心まで弾むような、のびやかで美しいスタイルが、この一瞬の輝きを生む。

photos: Gleeson PAULINO
 realization: Jeanne LE BAULT
 styling assistant: Sonia Montout
 model: Isabelle Dantas De Melo (Premium Models)
 casting director: Coco Casting
 digital operator: Daniel Sulima
 hair: Kazuo Doki (Calliste Agency)
 make-up: Mickael Noiselet (Calliste Agency)
 production coordinator: Nadia Abderahim Sahib
 location: Hajar Madad
 cooperation: Taghazout Bay



アーカイブのプリントに着想を得たシルクツイールのトップスは、スカーフをボディに巻き付けたようなデザインがドラマティック。ワイドパンツを合わせクールな佇まいに。トップス ¥814,000 パンツ ¥79,200 ベルト ¥253,000 (すべてセリーヌ / セリーヌ ジャパン) イヤリング (Zag Bijoux) (左手) リング (Zag Bijoux) リング (Histoire d'Or) (右手) リング (Histoire d'Or) リング (Thomas Sabo)



ムッシュ・ディオールの花々への情熱を現代へと昇華させたドレスが、太陽の日差しを浴びて煌めく。シフォンを花びらのように重ねたスカラブラッフルには、スパンコールやビーズの繊細な刺繍が輝きを添えて。スカルプチュアルな帽子が装いのモダンさを引き立てる。ドレス¥8,700,000 [参考価格] 帽子¥1,400,000 (ともにディオール/クリスチャン ディオール)

ブランドのヘリテージを象徴するフローラプリントが全身に咲き誇る。目にも華やかなキルティングドレス。プリーツを施した襟が凛と立ち上がり、優美に流れるロングシルエットが静かな気品と詩的なムードを醸す。ドレス¥1,595,000 (グッチ/グッチ クライアントサービス)





Crafted Summer クラフトが息づくサマーラグジュアリー

手仕事の温もりとモードの創造性が融合した存在感溢れるピースたち。ディテールに宿るクラフトマンシップが物語を紡ぎ、
装いを優雅に昇華する。ウェアから小物まで1点取り入れるだけで夏はドラマティックに。

styling: Natsumi Sato
text: Miyuki Kikuchi

1.Hermès 「エルメス」のシグネチャーであるスカーフ「カレ」から、今季はこだわりの一枚を選びたい。シルクツイルのプリント生地にスパンコールやビーズ刺繍が手仕事で施され、煌めきを纏った逸品。スカーフ「グラン・ギャロップ」 [W90×H90cm] ¥620,400 (エルメス/エルメスジャパン) **2.Valentino Garavani** クリスタルとアンティーク調の真鍮で仕上げた大ぶりのイヤリングは顔周りにモードなインパクトを添えて。片耳イヤリング ¥110,000 (ヴァレンティノ ガラヴァーニ/ヴァレンティノ インフォメーションデスク) **3.Prada** フリルやレース、プリーツが織りなす立体的な表情を、パッチワーク技法とアシメトリなシルエットで表現して。大人にこそ相応しい自由で大胆なエレガンス感を楽しめる一着。スカート ¥748,000 [予定価格] (プラダ/プラダ クライアントサービス) **4.Fendi** 夏の首元に映えるゴールド仕上げのメタルとブラックのカーフェザーを織み込んだネックレス。メタルとブラックエナメル「FF」ロゴのキャンディモチーフがアクセントに。ネックレス ¥271,700 (フェンディ/フェンディ ジャパン) **5.Jil Sander** 本のページを連想させる機織にも重なる柔らかなレイヤー。職人の手作業により600枚もの生地が使用されている繊細なデザイン。ドレス ¥1,540,000 [表参道店限定] (ジル サンダー/ジルサンダー ジャパン) **6.Manolo Blahnik** カットニングの美しさはそのままに、マチュピチュの民芸品からインスパイアされたニットリボン素材にあらった手仕事の温もり漂う一足。靴 [H7cm] ¥163,900 (マノロ ブラニク/ブルーベル・ジャパン ファッション事業本部) **7.Givenchy by Sarah Burton** スタイルの主役として存在感を放つフリジパッド。ストラップ付きで様々なシーンで楽しめる。バッグ「ファセット ナノ」 (W21×H14×D8cm) ¥269,500 (ジバンシィ by サラ・バートン/ジバンシィ ジャパン) **8.Celine** ベルベット素材にフローラルやブランドの象徴であるトリオンの刺繍が華やかに浮かび上がる。心ときめく夏を謳歌して。靴 [H5.5cm] ¥198,000 [予定価格] (セリーヌ/セリーヌ ジャパン) **9.Loewe** ファブリックにブークル効果を出すカラフルなビーズ刺繍を手作業で施し、アーカイブのグラフィックパターンを表現。見た目より軽くソフトな点も魅力的。バッグ「フラメンコバース」 [W30×H20×D10.5cm] ¥1,261,700 (ロエベ/ロエベ ジャパン クライアントサービス)



乗馬のルーツを感じさせるディテールが洗練さを物語るクロップドジャケット、リネンキャンバスとラムスキンを組み合わせた、精緻なキルティングステッチが手仕事の美しさを際立たせる。ニットのショートパンツを合わせ軽やかな着こなしに。ジャケット ¥1,980,000 / パンツ ¥440,000 [参考価格] / ブーツ [参考色] ¥496,100 (すべてエルメス/エルメス ジャパン) リング (Zag Bijoux)

双子座 5月21日～6月21日 5月初めは少くも「下」を続ける「上」からスタート。無理な予定を詰め込まず立ち止まるのも「上」を怖がらないで、静かな世界を過ごす中で、脳内に散らばった思考が整理されていく流れ。

LOUIS VUITTON

旅を変えた「ルイ・ヴィトン」のスーツケース 誕生から10年、その先へ

10年前、「ルイ・ヴィトン」とマーク・ニューソンという時代を超える二つの才能が出会い生まれた「スーツケース ホライゾン 55」。そのアイコン的なシリーズから、誕生10周年を記念した特別なモデルがリリースされた。同世代で最も影響力を持つインダストリアル・デザイナーの一人、マーク・ニューソンとの協業が結実したこのスーツケースは、機能性と美の融合という点において、ラゲージの概念を塗り替えてきた。そして今回、抜群の耐久性を誇るバージナルミニウムという素材を纏い、新たな次元へと進化。精密な内蔵ヒンジがクリーンなシルエットを際立たせ、調節可能な伸縮式キャリーハンドルを外側に配置することで内装は完全にフラットに。それにより、収納効率を最大化しながらも洗練されたルックスを実現したのだ。革新性と軽量化へのこだわりが細部に宿り、旅そのものを上質な体験へと昇華させる新作は、10年の歳月を経てなお、「ルイ・ヴィトン」×マーク・ニューソンが描く旅の哲学を強く反映している。



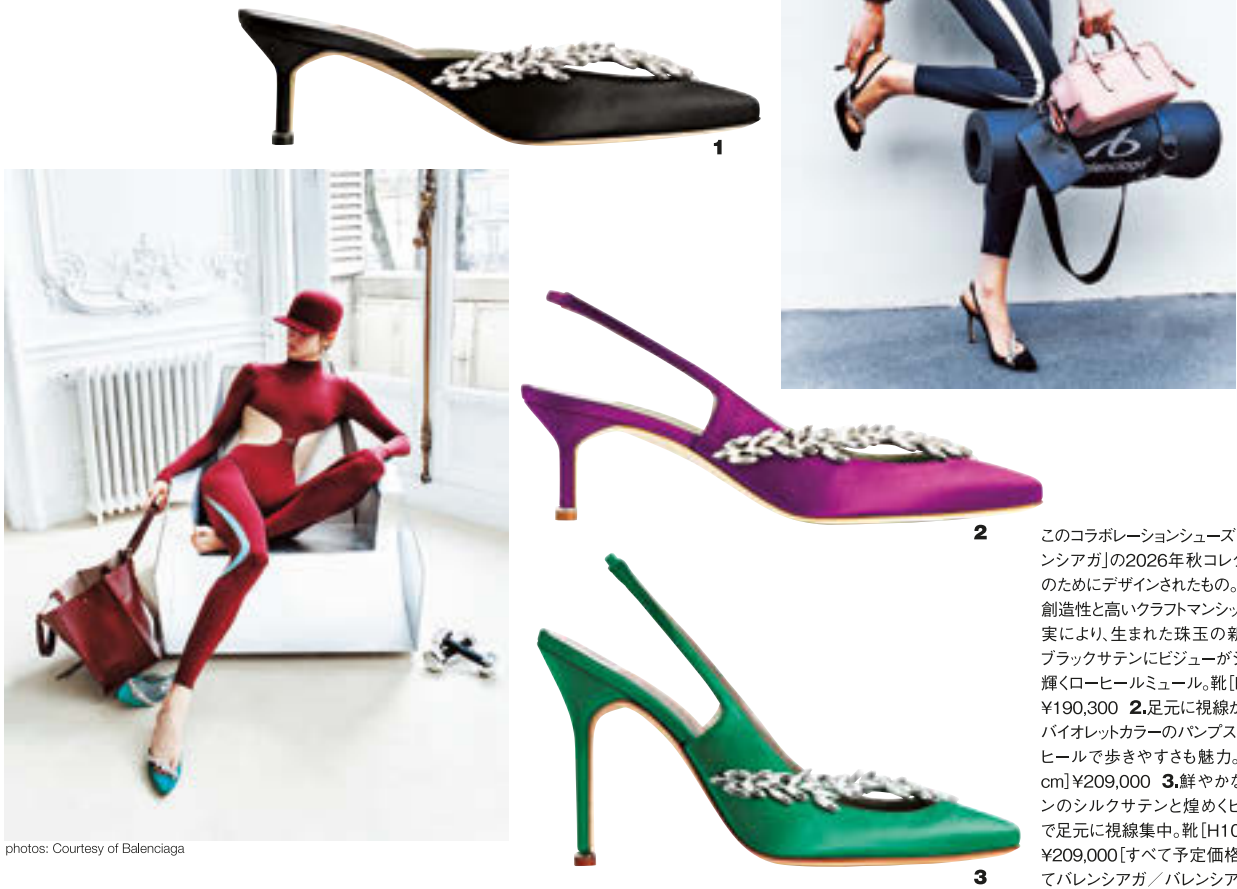
1. ナチュラルカラーのレザーのハンドルやトリミングが「ルイ・ヴィトン」らしい 2. 硬質なアルミニウムに浮か上がるモノグラム・パターンが静かに存在感を放つ。“スーツケース ホライゾン アルミニウム55” [W38×H55×D21cm] 各¥693,000 3. 旅のお供にはもちろん、デイリーにも使えるサイズのヴァニティも同シリーズから登場 4. シャープな印象のブラックのトリミングとハンドルで男性への贈り物にも。“ヴァニティ ケース アルミニウム” [W34×H21×D17cm] 各¥510,400 [すべて予定価格] (すべてルイ・ヴィトン/ルイ・ヴィトン クライアントサービス)

蟹座 Cancer 6月22日~7月22日 自分自身の居場所を広げ、様々な価値観に触れていくことが活性化に。過去の失敗や繰り返しながちなパターンにしがみつかず、新しい風を運んできてくれそうな人との関わりを大事にすること。

BALENCIAGA | MANOLO BLAHNIK

「バレンシアガ」と「マノロ ブラニク」 交差する2つの美意識から生まれた美しきシューズ

クチュールの卓越性を追求する「バレンシアガ」がシューズの巨匠「マノロ ブラニク」と初のコラボレーション「BALENCIAGA | MANOLO BLAHNIK」を発表。この協働は、クリエイティブ・ディレクターのピエール・パオロ・ピッチョーリ、マノロ・ブラニク、そしてクリストバル・バレンシアガの精神による創造的な交流から生まれた。2つのメゾンが共有するスペインのルーツ、そして3者に共通するクラフトマンシップへの熱い敬意が、この稀有なコラボレーションを可能にした原動力だ。ラインナップは、ローヒールのミュールと、10.5cmまたは5cmヒールのスリングバックの3型。シルクサテンで仕立てられ、美しいカラーリングも印象的。肌や身体のラインを引き立てる深いデコルテカットは、「バレンシアガ」の創作における“人体”への意識と重なる。また、煌めくクリスタル刺繍は、「マノロ ブラニク」のアーカイブデザインと、1960年代にクリストバル・バレンシアガが手掛けたビジュアを着想源としており、2つのメゾンが紡ぐ美意識の対話が、新作のシューズに凝縮されている。



photos: Courtesy of Balenciaga

このコラボレーションシューズは「バレンシアガ」の2026年秋コレクションのためにデザインされたもの。両者の創造性と高いクラフトマンシップの結果により、生まれた珠玉の新作。1. ブラックサテンにビジュアがシックに輝くローヒールミュール。靴 [H5cm] ¥190,300 2. 足元に視線が集まるバイオレットカラーのハンプスは、ローヒールで歩きやすさも魅力。靴 [H10.5cm] ¥209,000 3. 鮮やかなグリーンシルクサテンと煌めくビジュアで足元に視線集中。靴 [H10.5cm] ¥209,000 [すべて予定価格] (すべてバレンシアガ/バレンシアガ クライアントサービス)



HARRY WINSTON

「ハリー・ウィンストン 阪急梅田店」リニューアルオープン 2つの空間を備えた優雅なサロンへ

“キング・オブ・ダイヤモンド”と称される世界最高峰のジュエラー「ハリー・ウィンストン」の阪急梅田店がリニューアルオープン。ブランドの美学とクラフトマンシップが体感できる洗練された空間で、多彩なコレクションの魅力をゆっくりと堪能して。

photos: Asa Sato (still)
PT=プラチナ、RG=ローズゴールド、WG=ホワイトゴールド



新たな空間で手に入れるアイコン的なコレクション

1. 花びらの流麗なラインがエレガントな、「ハリー・ウィンストン」を代表するコレクション「リリー・クラスター」。阪急梅田店のリニューアルオープンを記念し、ローズゴールドの温かみを纏った新バリエーションが世界に先駆けて先行販売中。“リリー・クラスター・ミニ・ペンダント” [RG×ダイヤモンド] ¥770,000 “忘れな草”の花が咲き誇る優美なシルエットを表現した“フォーゲット・ミー・ノット”コレクション。ダイヤモンドとカラーストーンが織りなすツインモチーフの新作も登場し、より表情豊かなラインナップに。2.“フォーゲット・ミー・ノット・ツインペンダント” [PT×ダイヤモンド×ルビー] ¥3,696,000 3.“フォーゲット・ミー・ノット・ツインイヤリング” [PT×ダイヤモンド×サファイア] ¥4,444,000 4.“フォーゲット・ミー・ノット・ツインリング” [PT×ダイヤモンド] ¥4,741,000 5.“フォーゲット・ミー・ノット・リング” [PT×ダイヤモンド×ピンクサファイア] ¥2,244,000 6. 創始者が愛したダイヤモンドのフォルム、エメラルドカットを想起させるタイムピース。優しいピンクのトーンが手元に華やかな存在感をもたらして。“HW エメラルド” [WG×ダイヤモンド×ピンクサファイア×ホワイトマザー・オブ・パール、ピンクサテンストラップ、ケース17.7×24mm、クォーツ] ¥2,354,000 (すべてハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)



3月17日にリニューアルオープンした「ハリー・ウィンストン 阪急梅田店」。最新のデザインを取り入れたメインサロンと、ブランドの世界観を体感できるコンセプトスペースの2つの空間を備えたサロンとして、新たに生まれ変わった。(上)メインサロンには、昨年移転オープンした銀座のフラッグシップ・サロンと同様、伝統的なスタイルを現代的に再解釈した最新のデザインを採用 (下)ブランド初のコンセプトスペースとして誕生した「The World (ザ・ワールド)」は、メインサロンとシームレスにつながるよりオープンな空間。透明なガラスウォールや厳選されたファニチャー、ブランドの世界観を表現するデコレーションによって新しいイメージを演出

「ハリー・ウィンストン 阪急梅田店」
大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店5階
Tel: 06-6313-1399
営業時間: 10:00 ~ 20:00
定休日: 不定休(施設に準ずる)

獅子座 Leo 7月23日~8月22日 行動が結果に結びつきやすい流れ。スタートするきっかけを探していた人は5月17日の新月を逃さないこと！得意なものを思い出し、リスタートさせてみる。自分が自信回復の鍵。



SUZUSAN
名古屋・有松は、江戸時代から続く古い街並みとともに、400年以上の歴史を誇る有松鳴海絞りの産地として知られる。「suzusan(スズサン)」はその伝統を継ぎ、「鈴三商店」をルーツに発展。五代目・村瀬弘行氏ドイツでブランド「suzusan」を創業し、現地でデザインと有松での生産を融合。カンミヤやシルクなどに絞りを施し、衣服からホームコレクションまで世界29カ国で展開を行う。海外ラグジュアリーブランドとの提携、教育や産地連携も進めながら、伝統を現代のライフスタイルへと昇華している <https://suzusan-shibori.com>



NS by NOUSAKU
1916年、富山県高岡市を拠点に創業した「能作」は、高岡銅器の伝統を継承しつつ、世界初の錫100パーセント鋳物を確立。テーブルウェアやインテリアを通じてその魅力を発信してきた。新たに始動した「NS by NOUSAKU」は、軽くなやかな錫の特性を生かしたジュエリーブランド。体温に馴染むやわらかな質感と上品な輝き、繰起の良い素材としての背景を大切にしながら、錫と金を融合した新素材で、その可能性をさらに広げている <https://www.ns-by-nousaku.com>

ゴではなくものづくりの背景が問われるようになったことで、ブランドはその価値を支える「日本のクラフト」を求めようになった。一方で、伝統工芸の側にとっても、こうした文脈に関わることが生き残り新しい表現の場を開く一つの選択肢となっている。その象徴的な例が、有松鳴海絞りのブランド「suzusan」である。400年以上の歴史を持つ有松鳴海絞りの技法を背景に、鈴三商店五代目の村瀬弘行氏がドイツで立ち上げたブランドだ。伝統技法を現代のプロダクトへと転換し、「ディオール」のオートクチュールに生地を提供。カシミヤなどの高級素材やインテリアにも展開し、現在は29カ国で販売されている。伝統工芸がラグジュアリーの文脈を獲得することは、地域経済にも新しい回路を開く。

ある。400年続く高岡銅器の技術を基盤に、錫100パーセントの「曲がる器」で国内外に知られる存在となった。かつて問屋の下請けに徹していた同社を、自社ブランドへと転換させたのが現会長の能作克治氏である。若い頃、工場見学に来た母親が子どもに「勉強しないという仕事にしか就けないよ」と言うのを耳にし、職人の地位を変えなければならないと決意したという。2017年には工場見学や体験ができる新本社を開設し、年間13万人以上が訪れる産業観光の拠点へと成長させた。2023年には長女の能作千春氏が五代目社長に就任し、「錫婚式」を提案、ウェディング分野やジュエリー分野へと新たな事業を展開している。「suzusan」もまた、有松の直営施設で絞り体験を提供し、海外からの来訪者を産地へ呼び込んでいる。

ラグジュアリーホテルや高級観光列車が伝統工芸をキュレーションする動きも各地に広がった。工芸は「買うもの」から「訪ねるもの」へ、さらに「体験するもの」へと広がり、産地ツーリズムという新しい経済圏を形づくりつつある。もちろん、多くの産地で職人の高齢化と後継者不足は深刻である。国際的な評価の高まりと人材基盤の脆さとの緊張は、いまだ解消されていない。それでも現場で取材を重ねていると、未来を見据えて伝統工芸の形を更新しようとする若い担い手たちには、いくつか共通した姿勢があるように思えてくる。第一に、外側の視点を持つこと。自分たちの価値は、近すぎると見えない。村瀬弘行氏はドイツという距離を置いた場所で有松鳴海絞りの美しさを再発見した。能作千春氏も、神戸のセレクトショップに並ぶ自社製品の魅力を上司から評価され、家業の可能性をあらためて実感したという。

第二に、文脈を翻訳する言語を持つこと。技術そのものを変える必要はない。だが、その意味を現代の市場や文化の言葉に翻訳できなければ、どれほど精緻な手仕事も世界には届かない。「エルメス」と「京都マール」の10年は、一つの染色技法が国際的なラグジュアリーの言語へと翻訳されていく過程でもあった。そして第三に、完璧な条件を待たないこと。構想の大きさよりも、一歩を踏み出す意志が道を開く。伝統工芸の価値は、ただ「発見される」のを待っているわけではない。価値とは、つくるものだ。そしてそれは、かつてもこれからも、意志をもって手を動かす「人」から始まる。



TAMIYA RADEN
海外ラグジュアリーブランドとのコラボレーションに近年力を注ぎ、中野香織氏も注目する「民谷蝶組」。1300年以上続く絹織物の産地、京丹後に工房を構え、1977年、丹後の織元・民谷勝一郎が「貝殻を織る」発想を実現。蝶組と引き箔を融合し、貝殻を糸状にして帯に織り込む独自技術を確認した。2006年からは、パリを拠点に海外へのアプローチもスタートし、海の煌めきを宿す織物を世界へ向けて発信している。(左)中国のクチュールデザイナー、グオ・ベイとのコラボレーションで、蝶組織生地を全面に使用したドレス (右)厚さ約1ミリまで削り出した貝殻を丁寧に切り出し、職人の手によって丹念に配置されていく工程 <https://tamiyaraden.com>



HERMÈS × KYOTO MARBLE
時を超えて愛される製品を作り続ける「エルメス」は、世界で唯一のプリント技法を持つ「京都マール」とコラボレーション。色付けた濃粉ペースを巧みに組み合わせ、網布にマール模様をプリントする独自の技法は、野瀬家が代々営んできた「京都マール」によって守り続けられてきたもの。京都の工房でプリントが施され、縁かがりなどの仕上げはフランスの「エルメス」の工房で行う。メゾンの美意識と日本に唯一残った特別技法が結実したプロダクトだ。写真はロペール・ダシの《野生馬》のデザインを、マールプリントの伝統技術を用いて巧みに表現した1枚。スカーフ/カレ 90(野生馬)マールシルク ¥216,700 (エルメス/エルメスジャパン)



GUCCI × HOSOO
「グッチ」と京都・西陣織の老舗「HOSOO」による協働は、伝統と革新を結ぶ対話として2022年に始動。受け継がれてきた織の技術を現代の感性で再解釈し、独自のテキスタイルを生み出してきた。第4章となるコレクションでは、「HOSOO」の技法を用いて、フローラモチーフとGGパターンを融合した作品が登場。銀箔を織り込んだ多層構造が奥行きをもたらし、優美で立体的な表情を実現。西陣織の可能性をさらに広げている。バッグ/グッチ バンパー 1947 [W21×H15×D7cm] ¥831,600 (グッチ/グッチ クライアントサービス)

The New Craft of Luxury 伝統工芸とラグジュアリーの未来

日本の伝統工芸は今、世界のラグジュアリーと響き合いながら、新たな価値を生み出している。手仕事の美と歴史が、現代の感性と結びつくことで、その存在意義はどのように変化していくのか、その可能性に改めて注目する。

伝統工芸の可能性 「下請け」から「ともに創るパートナー」へ
中野香織 文化史家

「エルメス」のカレ(スカーフ)に、「マールシルク」と呼ばれるシリーズがある。京都の小さな工房が守り続けてきた、世界でも唯一とされる染色技法によるものだ。メゾンが長年探し求めていた理想的なマールプリントは、実はこの工房の中に存在していた。両者の協働は2015年頃に始まり、10年以上にわたって続いている。カレやツイリーとして多くのシーズンに登場し、近年では一部のバッグにも用いられるなど展開が広がり、「エルメス」は一貫して



LVMH MÉTIERS D'ART × KUROKI
「LVMH メティエール」は、世界各地の卓越した職人技とマニファクチャーを結集し、素材開発と技術継承を推進するLVMHグループの専門組織。その一環として、2023年に世界屈指のデニム生産地として知られる岡山県のデニム生地マニファクチャー「KUROKI(クロキ)」と日本初のパートナーシップを締結した。さらに同拠点では、アーティストが一定期間滞在し職人と協働して創作を行うプログラム「アーティスト・イン・レジデンス」も昨年行われ、米澤榕による作品「光の傷」を発表(写真左、中)。職人技と現代アートの融合が新たな創造を切り開いている。また「LVMH メティエール」は京都の西陣織を代表する老舗「HOSOO」も提携を結び、日本の伝統技術との連携を一層深めている

「マール」という名前を冠し続けている。かつて、こうした産地との関係は、ごく限られたメゾンの例外的な慧眼にすぎなかった。だが今、それはラグジュアリー産業全体の潮流になりつつある。「グッチ」と京都西陣織の老舗「HOSOO」の協働。「ディオール」の「京都コレクション」における龍村美術織物や京友禅の染匠たちとの仕事。日本の伝統工芸は、いま世界のラグジュアリーの舞台に、かつてない頻度で登場している。背景にあるのは、ラグジュアリーの価値の置きどころそのものの変化である。2010年代にはまだ大きなロゴや、誰の目にもわかるステータスが重視されていた。しかし現在、人々が問い始めているのは別のことである。

どんな素材を、どこの誰が、どんな技でつくったのか。土地に根ざした物語や、手仕事の履歴が、価値そのものとして読み取られるようになっていく。いわゆる「クワイエット・ラグジュアリー」とも連動するこの流れは、環境配慮や持続可能性を求める時代の要請とも重なり、ラグジュアリーの方向を大きく転換させている。そしてこの問いに最も明確な答えを示せるのが、長い年月をかけて技術を受け継いできた伝統工芸の世界なのである。この変化を象徴する出来事がある。2022年5月、LVMHモエ ヘネシー・ルイ ヴィトン・パルノー会長が来日し、当時の官房長官だった松野博一氏を表敬訪問した。その面会では、傘下ブランドの商品に日本の素材の産地名を明記すること、日本の中小企業や職人との連携をさらに発展させること、そして若手アーティストや工芸家とのコラボレーションを推進することなどについて話し合われた。

こうした議題が、世界最大のラグジュアリー企業のトップと一国の政府で話し合われること自体が、産業構造の変化を如実に示している。また、同年末には、卓越した職人技の継承と発展を支援するLVMH メティエールの世界唯一の支部が日本に設立されたことも象徴的だ。日本の伝統工芸は、グローバル・ラグジュアリーの文脈において、匿名の下請けから名前を持つ共創パートナーへと、その立ち位置を変え始めたのだ。もちろん、この変化は一方方向ではない。《P.23へ続く》

JTB

記憶に残る体験が待つ “おとな旅”で まだ知らない スペインを探しに

人生の経験を重ね、世界を巡り見聞を広め、
なお好奇心は衰えない。
そんな成熟した大人に選ばれているのが、
「LOOK JTB」の「おとな旅」で巡る、
スペインを深く知る旅。

text: Satsuki Tadokoro



バル巡りでは、バスク地方名物のピンチョスなどを楽しんで



“ビスケー湾の真珠”と呼ばれる風光明媚な美食の街サンセバスチャン

複 数の都市や名所を駆け抜ける旅も存分に
楽しんだ世代だからこそ、次は心と時間の
ゆとりを味方に、じっくりと深く味わう奥行きのある旅
へ。上質な旅を提供する「おとな旅」の特長は、これまで
通り過ぎていたような魅力的な街や村も見逃さず、
その街や土地の魅力を掘り下げる、こだわりのツアー
である点。最低でも1000日以上のアテンド経験を持つ
プロフェッショナルな添乗員が同行し、要所要所で
現地事情に精通したガイドも加わる2名体制が基本だ。
コースに合わせてホテルやレストランも厳選。
さらに、地元の人と触れあう旅の合間の「異文化体験」も、
「おとな旅」ならではのコンテンツだ。
人気なのは、スペインの奥深い魅力に触れるコース。
1つは、フランスとの国境に位置するバスク地方から
西のガリシア地方まで、北スペインの文化と出会う旅。
グリーン・スペインとも呼ばれる緑豊かなこの一帯では、
美食の街として名高いサンセバスチャンでのバル巡りや、
歴史あるワインの産地リオハのワイナリー訪問など、
北スペインの食文化を味わえるのもポイント。「異文化体験」
では、キリスト教の聖地・サン

チャゴ・デ・コンポステラまでの長い巡礼路にある
ブルゴスの巡礼宿を見学。到着地のカテドラルでは、
巡礼者を労い、行われるポタフメイロにも立ち合う。
もう1つのコースは、スペイン黄金時代にこの地を
治めたハプスブルク家ゆかりの地を巡る旅。「ドン・キ
ホーテ」の舞台ラ・マンチャ地方の小高い丘に並ぶ
風車の見学や、名物の生ハムを切る職人“コルタ
ドール”の技術を知る「異文化体験」も。
新たな驚きや感動と何度も出合える旅が、人生を
さらに彩ってくれるはず。



ハプスブルク王室の豊かさを物語る重厚なアラanfエスの王宮と庭園



ラ・マンチャの風車

information

おとな旅 ● スペインを深く知る旅
美食のサンセバスチャンから
ポタフメイロ薫るサンチャゴへ
10日間

Check

ゲルニカ観光ではピカソが描いた「ゲルニカ」を再現した壁画を案内。サンセバスチャン散策とバル巡り。中世の面影を残す国営ホテル、バラドールに宿泊。サンチャゴ巡礼の宿を見学し、サンチャゴ・デ・コンポステラではカテドラルに入場。



↑
ツアーの詳細はこちら

おとな旅 ● スペインを深く知る旅
スペイン黄金時代を訪ねる
ラ・マンチャの風車とアラanfエスの
残照8日間

Check

ラ・マンチャの風車、世界遺産アラanfエスの王宮と庭園を見学。スペイン帝国黄金時代を象徴するエル・エスコリアル修道院に入場。ギフエロの生ハム工場見学後、マドリドではマヨール広場周辺のバル巡りへ。王室コレクションギャラリーにも入場。



↑
ツアーの詳細はこちら



射手座 Sagittarius 11月22日～12月21日 ★ 新月が過ぎると日々のお金の使い方に意識が向く。生活の基盤を見直すことが解決するヒント。軽いストレッチなど朝の習慣を作ると1日の流れが安定し、集中力も高まる暗示。



The New Craft of Luxury ラグジュアリーホテルが 伝統工芸を キュレーション

近年、日本のラグジュアリーホテルも
伝統工芸の価値に改めて光を当て、
インテリアや建築、滞在体験へと再構築している。
土地の記憶と職人の手仕事を織り込み、
空間を美意識で形づくる潮流が
広がっている。

PALACE HOTEL TOKYO

滞在、食、体験で巡る
伝統工芸に触れる時間

「パレスホテル東京」では、館内のいたるところで日本の伝統工芸の美を
体験することができるのはもちろん、さまざまなおもてなしを通して、その美
意識が語られる。1.客室では南部鉄器や有田焼、越前漆器など日本の
伝統工芸品の茶器が揃えられ、その精緻な手仕事に触れられる。2.ア
クティビティとして、創業130年以上の老舗、東京・日本橋の工房「龍工房」
から講師を迎えた組紐体験を用意。3.1F ロビーラウンジ「ザパレスラウ
ンジ」では、石川県輪島市を拠点に活躍する輪島塗師の赤木登氏
による漆器“Stones”でアフタヌーンティーが提供される。

パレスホテル東京
東京都千代田区丸の内1-1-1 tel. 03-3211-5211



ESPACIO

芸術と匠の技に
包まれる
至高のホテルステイ

日本に息づく文化・芸術を全面に打ち出し世界へ発信するホテルブランド「エスパシオ」。館内や客室はさ
さまざまな作家たちの作品で彩られ、まさにアートミュージアムのような。1.「エスパシオ 箱根迎賓館 麟鳳亀
龍」の客室「宙」は、唐紙師・千田長右衛門による亀文様の唐紙で彩られた空間。長寿と吉祥を象徴する
意匠が穏やかな時を演出。2.「名古屋観光ホテル」には、名古屋黒紋付染、有松絞り、尾張仏具、岐阜提
灯、伊賀くみもといった伝統工芸の匠たちが手掛けた逸品を配した「匠コンセプトルーム」が登場。3.名
古屋城の目前に昨年オープンし話題を集めた「エスパシオ ナゴヤキャッスル」。約400点ものアートが彩る
贅を尽くしたインテリアに圧倒される館内。希少な工芸作品に囲まれながら非日常の世界へ

エスパシオ 箱根迎賓館 麟鳳亀龍 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下72 tel. 0460-87-9200
名古屋観光ホテル 愛知県名古屋市中区錦1-19-30 tel. 052-231-7711
エスパシオ ナゴヤキャッスル 愛知県名古屋市中区種町3-19 tel. 052-521-2121

©JUJI OKAMOTO.(LIONPHOTOSTUDIO/TOTOKYO)



CURATION HOTEL MOMOYAMA-GAEN

600㎡の大空間に広がる
アートと伝統工芸の響き

日本各地に残る歴史ある建築をリノベーションし、キュレーションの
力を発揮しながら、唯一無二のデザインを持つ一棟貸しサロンへと
再生している「キュレーションホテル」。その中の一棟「桃山雅苑」は、
熱海のと山に囲まれた600㎡の空間に、若手作家のアートをはじめ
、伝統工芸、大工による伝統の内装技法が全館にちりばめられた
箱。4つのゲストルームは国内外で活躍する4人のインテリアデザイ
ナーが手がけ、それぞれが薪能や茶の湯など異なるテーマにインス
パイアされている。1.琳派による岩群青が印象的な富士の屏風
(1800年作)。ロンドンへの幕末流出品の買戻し)が飾られたLDKは
天井高4mの開放的な空間。2.淡いブルーで統一されオーシャン
ビューのベッドルームには、宮城県・気仙沼の藍染工房によるウォ
ールアートが目玉を引く。

キュレーションホテル 桃山雅苑
静岡県熱海市桃山町23-25 tel. 0557-86-5005

蠍座 Scorpio 10月23日～11月21日 ★ 5月2日の満月は長い時間をかけて築いてきた関係のメンテナンスに最適な時期到来。無理に相手と合わせるとなく、正直な自分で振る舞える距離感が関係性を良い形に整える秘訣。



何度も訪れたい魅力に満ちあふれたスペイン。1.サンルーカル・デ・バラメダ 2.シェリー酒のボデガ 3.アーモンド、ニンニク、オリーブオイルを用いた冷製スープ「アホ・フランコ」 4.魚の炭火焼き 5.サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂

伝統料理から、世界を牽引するイノベーティブな料理まで

スペインは、年に2～3回は行くほど好きな国の一つという浜田さん。「何度も訪れても、新しいお店がどんどんできていくので追いつかないという状況です。スペインは、世界のガストロノミーにおいて先進国の1つであると思っています。その理由は大きく3つあると僕は考えていて、1つは価格帯。本当の高級店から、1000円ぐらいでも美味しいものをつまめるカジュアルなバルまで、価格帯の幅広さと質が担保されている国って、世界ではあまり多くないんですよ。もう1つは食材の多様さです。海に囲まれたスペインは、海水温や地形によって獲れる魚介も異なります。魚種も豊富で、タコ、貝、海老など多種多様な魚介

を国内で集めることができるのは素晴らしいことです。また、陸の食材も充実しています。地域や季節ごとに瑞々しく力強い野菜が楽しめますし、イベリコ豚やガリシア牛などは世界的にも有名。残念ながら今はスペイン産の豚肉の輸入が日本では停止されているため、あの美味しいスペインの生ハムも、現地に行かないと食べられません。そして、最後の1つとして浜田さんが挙げたのは、食材をシンプルに活かして調理する店から、徹底的に技巧を極めた店まで、スペインのガストロノミーの幅の広さだとか。「食材に恵まれているからこそ、フォーカスして調理するレストランのジャンルがあります。例えばアサドールという

のはバスク地方に昔からある薪焼きの調理法。カジュアルな店が多いのですが、「アサドール・エチェバリ」は、この技術を突き詰めて『世界のベストレストラン50』にも選ばれています。同じく選出されている『ディベルシヨ』は、対極にあるレストラン。科学技術を料理に応用する分子ガストロノミーという調理法を実践した有名店『エル・ブジ』の流れをくみ、さらに自由に独創的な料理を生み出しています。また、若い料理人の中では、野菜を主役にした料理が新しいトレンドとなっているのにも注目しています。このようなスペインのイノベーティブな料理が、世界のガストロノミーを牽引しているのです。僕の母は、いくら美味しくても同じものをいっぱい食べられないって言うんですけど、スペインは、バルでもこうしたイノベーティブな店でも少量ずつ小皿で出してくれるから、いろんな料理が食べられる。それが可能な国って、世界でもあまり多くないんですよ。食ってやっぱり行かないと味わえないもの。食材も水も違うし、空気、湿度も違う。いくらAIが進展しようが、現地の人に囲まれて食べるという体験は、そこへ行かなければできないですよね」

「スペインは時間がすごくゆったりと流れている」と、『マリ・クレール』の田居克人エグゼクティブ・アドバイザーも語った。「アートや建築などを見ていると余裕を感じます。成熟した大人のライフスタイルが、食文化にもつながっているのでしょう」

美食の最先端にあるスペインを、観光とともに楽しんで。



アンダルシア地方の伝統的なスープ料理「アホ・フランコ」と「ガスパチョ」、そしてタバスグラスワインとともに来場者に提供された。タバスは、「パン・コントマテ ～ハモンイベリコを添えて～」 「アホ・フランコ ～熟成鮭とオリーブを添えて～」 「タルタレタ ～ピストとイディアサルチーズを添えて～」 「ソブラサーダ ～オリーブブリオッシュとピキジョー～」 「ロメスコソスのアルペンディガス」の5種類



Tourism Section Embassy of Spain

多彩な表情で世界を魅了するスペイン。多様な食材が生み出す、美食の旅へ

世界中の旅人を惹きつけてやまないスペインの魅力、多彩な風土、文化、歴史からひもときながら、その多様性が生み出す食にフィーチャー。スペインでしか味わえない、ガストロノミー体験の旅に出よう。

photos: Toru Kometani (event) / illustration: Chika Miyata / text: Satsuki Tadokoro

観光だけにとどまらない、スペインの食の奥深さ

観 光立国として名高いスペイン。2025年には、人口の約2倍の観光客が訪れているというデータからも、人気の高さがうかがわれる。世界中の人々を惹きつけるスペインの魅力とは？



イベントでは、銀座のスペイン料理店「MASIA」シェフのマテウ・ビジャレットさんによる、料理のデモンストレーションと試食が行われた

まず挙げられるのが、文化や風土の多様さだろう。北はカンタブリア海、西は大西洋、そして東と南は地中海と四方を海に囲まれ、内陸には複数の山脈が横断。海流や地形の影響により、地域ごとに気候が異なるスペインは、大きく4つのエリアに分けられる。海洋性気候で雨や霧も多く緑が豊かな北部には、美食の都サン・セバスティアンでおなじみのバスク州や、キリスト教巡礼の聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂で有名なガリシア州などが含まれる。首都マドリドを中心とした中央部は、標高が高く昼夜の寒暖差が大きいので、良質な葡萄が採れる世界有数のワインの生産地でもある。強い日差しが照りつける南部は、フラメンコの本場アンダルシア州の州都セビージャや、イスラム建築の粋を集めたアルハンブラ宮殿を擁するグラナダなどが代表的。温暖で乾燥した地中海沿岸の東部には、ガウディ建築で有名なバルセロナや、バエリア発祥の地とされるバレンシアなど人気の観光地が揃う。

他のヨーロッパ諸国では見られないイスラム文化とキリスト教文化が共存する独特な文化には、8世紀初頭から15世紀のグラナダ陥落まで約700年にわたるイス



ラム支配と反イスラムによる国土回復運動(レコンキスタ)といった歴史的背景が影響を与えている。このような地理的多様性がスペインを食材の宝庫たらしめ、文化・風土の多様性がガストロノミーにも奥深さをもたらしているのだ。

スペイン大使館観光部と『マリ・クレール』共催のイベント「Gastronomy of Spain ～食と旅のクロストーク～」で特別ゲストとして登壇した世界No.1フーディーの浜田岳文さんに、スペインの食の魅力を語ってもらった。

——
浜田岳文
美食家・フーディー。米国イェール大学(政治学専攻)卒業後、外資系投資銀行などで約10年勤務し、その後世界一周の旅で食文化を探究。現在は食と旅の情報発信し、世界約128の国と地域で食べ歩きほか、「世界のベストレストラン50」日本評議員長も務める。



4月2日に開催されたイベント「Gastronomy of Spain ～食と旅のクロストーク～」世界No.1フーディーの浜田岳文さん(中央)と『マリ・クレール』の田居克人エグゼクティブ・アドバイザー(右)によるトークショーでは、スペインへの渡航経験も豊富なフリーアナウンサーの宇賀なつみさん(左)がMCを担当。食にとどまらず、アートやファッションなど様々な視点からスペインについて語り合った

Hair care habits

クリーンに保ち、頭皮環境を育む。初夏のヘアケア

うねり、パサつき、ツヤのなさなど、髪の毛が出がちな初夏。ヘアケアを極めたプロが、お手入れの疑問にアンサー。アイテムも刷新して、気候に負けない美髪を手に入れよう。
photo: Eri Hosomi / styling: Hiromi Takeuchi / text: Kiriko Sano

Q.初夏のヘアにはどんなことが起きている?

A.「5月以降は温度が高まり、紫外線が強くなる影響で、髪の毛のクセやパサつきが出やすくなります。頭皮が蒸れると酸化して、抜け毛や薄毛などのお悩みにつながる可能性もあるため要注意です」

Q.今の時期におすすめのケアは?

A.「頭皮の新陳代謝が悪くなりやすい季節は、なるべくクリーンに保つよう心がけましょう。頭皮も毛髪も、デトックスできるアイテムを取り入れると、カラーの持ちがよくなるなどのメリットがあります」

Q.梅雨のうねり対策を知りたい

A.「注目の「トステア」という成分を用いた製品は、特にうねりの根本ケアに効果的です。また、ドライヤー前後のヘアケア剤に加え、外出前には髪のプロテクトを行って、外的刺激から守るのも有効です」

Q.コンディショナー、トリートメント、ヘアマスクの違いは?

A.「ブランドによって異なりますが、一般的には、コンディショナーは軽い質感で表面をコーティング。トリートメントは内部のダメージ補修。ヘアマスクは週に1、2回使う、よりリッチな集中ケアを指します」

Q.ギアは新しいものに替えたほうがよい?

A.「ドライヤーは風力や速乾性が高まり、毛髪のおいを奪いすぎないものも登場。アイロンは、髪芯部からのぼせて、ストレスフリー＆ダメージレスなものが増えるなど、最新作は進化が感じられます」

Q.スカルプケアや集中ケアを続けるには?

A.「育毛剤や、頭皮の汚れをとるジェル状のものなど、普段のケアに組み込みやすいものから始めてみましょう。毛周期を考え、まずは3カ月の継続使用を目標にすると、手応えが得られやすいですよ」



AMATA店長 毛髪診断士 ERI
2019年より、東京・南青山の洗練された大人が通うサロン、「AMATA」の店長を務める。最新技術に精通し、マチュア世代を美しく見せる技術に長けた、ヘアケアのプロフェッショナル。

out-bath ツヤと輝きをもたらす新習慣

10.L' OCCITANE 紫外線から6時間髪を守る便利なヘアミスト。インテンシヴリペア UVプロテクション ヘアミスト 125mL ¥4,950 [数量限定発売] / ロクシタンジャパン **11.La CASTA** 長野県の自社農園で開発したエーデルワイスエキスで、環境ストレスをケア。エーデルワイス ヘアフルイド リフレッシュ 95mL ¥4,400 / アルペンローゼ **12.ReFa** 梳かすだけで、ミスト化したトステア配合の専用セラムでケアできる、先進的な技術を搭載したアイロン。リファトリートメントアイロン ¥35,200 / MTG **13.Celvoko** 自然由来成分100%、森を想起させる香りのスカルプローション。熱がこもりがちな頭皮に、瞬時に爽快感をもたらす。フリージング ヘッドショット ドーンフォレスト 50mL ¥2,970 / セルヴォーク **14.SNOW FOX SKINCARE** 遠赤外線放射材と24Kゴールドメッキのブラシピンで特許を出願。頭皮の温度を高め、巡りがアップ。プレミアム FOX カッサ 遠赤外線 ミニ ヘアブラシ ¥18,480 / SNOW FOX SKINCARE **15.KÉRASTASE** グロッシューを艶めき宿す、ドライ前後に使うヘアオイル。髪の毛のパサつきや、ハリのおさが気になるなら。グレイストロップス 45mL ¥5,940 / ケラスタール **16.Panasonic** 小型でパワフル、速乾性に優れた最新ドライヤー。ヘアードライヤー イオニティ EH-NE9P ¥21,780 (編集部調べ) / パナソニック

marieclairejapan.com

in-bath 洗い、うるおすルーティンケア

1.AYURA エイジングによるうねりの原因にアプローチ。ウェルバイタル シャンプー 300mL ¥3,080 / アユラ **2.DIOR** メンズの名香からシャンプーが登場。力強いウッディな香りに包まれて。ソヴァージュ シャンプー 250mL ¥8,030 / パルファン・クリスチャン・ディオール **3.Aujua** じりじりと広がる毛髪に軽やかなまとまり感をもたらす。オージュア ミラジュエリィ ヘアトリートメント 250g ¥6,600 / ミルボン (美容室専売品) **4.john masters organics** 週2回の集中ケアで、集中的に補修しつつキューティクルを引き締める。ボンドレイヤーヘアマスク 200g ¥5,500 / ジョンマスターオーガニック **5.WELEDA** -4.6°Cを体感できる頭皮クレンジングですっきり、ヘッドスパ感覚で、頭皮をマッサージしながら使って。ローズマリー スカルプクレンジング スーパークール 200g ¥3,300 (6月12日限定発売) / ヴェレダジャパン **6.athletia** 一本でシャンプーからトリートメントまで完了する人気のバームが、ビッグサイズが登場。リフレッシュ シャンプーバーム ビッグサイズ 240g ¥5,500 (6月5日発売) / アスレティア **7.OSAJI** 植物由来の優しいクール感で、夏場の頭皮をさっぱりと洗い上げる。クール シャンプー Ryo (リョウ) 230mL ¥2,750 / OSAJI **8.PAUL & JOE** 週に1~2回、ソルトスクラブでクリーンな頭皮環境へ。ポール & ジョー スカルプ スクラブ 240g ¥5,500 (6月1日発売) / ポール & ジョー **9.ESTABLISHED** サロン仕様に匹敵する成分を採用し、「トステア」でうねり対策。ESTABLISHED コアプレックス シャンプー 400mL ¥4,840 / MODO

mesm TOKYO, AUTOGRAPH COLLECTION

世界チャンピオンのシェフが手がける “劇場型レストラン”ランチが刷新

text: Rika Ogura



フレンチダイニング「シェフズ・シアター」
住所: 東京都港区海岸1-10-30 メズム東京16階
tel: 03-5777-1112

【トレットール・セミランチブッフェ】 ¥7,600 (お一人様)
※メニュー内容は3か月に1度程度、変更を予定
営業時間: 11:30~15:00 / 滞在可能時間90分



1. セミブッフェスタイルのランチがはじまる「シェフズ・シアター」 2. ブッフェ台に並ぶ本格的なパテ・アン・クルート 3. 見た目もスタイリッシュなケーキなどデザートは約4種

東京・竹芝のウォーターフロントに位置するモダンラグジュアリーホテル「メズム東京、オートグラフコレクション」。2020年4月の開業以来、五感を魅了するユニークな体験ができると評判を呼んでいる。2026年4月1日から、フレンチダイニング「シェフズ・シアター」で新スタイルのランチがスタート。“シェフの劇場”をコンセプトに、国立の劇場とのコラボレーションや、シェフオリジナルのストーリー仕立てのメニューなど、コース形式のランチを提供してきた、これまでの特別感はそのままだに、キュリナリーマスター 隈元香己とそのチームが手がける確かな味わいを、より自由に選べるセミブッフェスタイルへと生まれ変わった。

着想源は、フランスで人気のあるトレットール (Traiteur)。トレットールとは、フランス語で「お惣菜屋」の意味で、フランスの肉屋 (ブーシェリー) やデリカテッセンなどの惣菜コーナーに並ぶ、香りと旨みをたたえたローストや煮込み、テリーヌ、マリネ、キッシュなどの家庭的でありながらも華やかなテイクアウトメニューのこと。この「気取らないのに本格的」という魅力をメズム東京らしく磨き上げ、ブッフェ台にはアミューズブッシュとオードブルを常時約 15 種、パン 3 種を用意している。トレットールのショーケースをイメージした、彩り豊かなアミューズブッシュをはじめ、シャルキュトリーやパテ・アン・クルート、ムール貝のムクラード、また神奈川・三浦野菜を中心とした根菜にトロリとした専用チーズをかける料理、ラクレットのライブステーションや、サラダにデセールまで豊富にそろった“目にも美味しい”メニューばかり。メインディッシュは、魚料理のほか、ポークまたは国産牛など約3種類から選べ、出来立てがテーブルへ運ばれる。ブッフェに並ぶ料理もメインディッシュも「美味しいものを、美味しい状態で味わってほしい」という想いが込められ、一品ずつ丁寧に仕立てられているのがうれしい。食後はデザートで締めくり。約 90 分間の本場フレンチダイニングで味わうビストロノミースタイルは、会話はずみ、忘れられない時間となるはずだ。

Kouki Kumamoto

キュリナリーマスター 隈元香己
都内フレンチレストランで料理人としてのキャリアをスタート。その後、ホテルメトロポリタン エドモントの統括名誉総料理長・中村勝宏氏のもとで研鑽 (けんさん) を積む。2014年には、フランス料理界の巨匠ジョエル・ロブション氏が審査委員長を務める権威あるコンクール「第64回 プロスペール・モンタニエ国際料理コンクール」で優勝。2019年1月メズム東京、オートグラフ コレクション キュリナリーマスター (総料理長) 就任。



魚座 piscess 2月19日~3月20日★話して繋がる！軽快なラットロークが活性化に。気になっていたイベントや身近な旅行も思い切って飛び出すことで、停滞していた状況や気持ちもスリッリ運動して解消されていく予感。



阿里山から世界へと光のシグナルが放たれていく。未来へ向かって開かれた台湾のエネルギーを象徴する作品

TAIWAN

夜空に灯る 「2026台湾ランタンフェスティバル in 嘉義」 五感で旅する台湾

旧正月の終わりを告げ、春の訪れを祝って台湾を華やかに彩る「台湾ランタンフェスティバル」。2026年は台湾中南部、阿里山の麓に広がる自然豊かな街・嘉義県で開催された。3月3日から15日まで「台湾に光を、嘉義に輝きを」をテーマに繰り広げられた光の祭典。その幻想的な灯りの風景のなかに浮かび上がるのは、台湾、嘉義という街の魅力、そして未来へ向かうエネルギーだ。

text: Jun Makiguchi



龍虎塔。「夜のライトアップがすごく素敵で楽しかった場所。SNS 映えしますし、写真を撮るのも楽しいです」と妻木木さん

CM「最愛台湾紀行」に出演する 台湾観光アンバサダー 妻木木聡さん おすすめの観光スポット

新CM「最愛台湾紀行」に出演中の妻木木聡さんが、注目を集める中南部、台南・高雄をナビゲートする。活気あふれる商店街「三鳳中街」の多彩な乾物や、龍の口から入り虎の口から出ることで厄を払うとされるパワースポット「龍虎塔」などを紹介。「地域ごとに異なる美食を探索も楽しい」と語り、台北とは一味違う現地の魅力をアピールする。厄除けとグルメを堪能する、新たな台湾旅への関心が高まりそうだ。



かつて雷の象徴とされた和製マジョリカタイル。「伝統家屋の外壁や家具に使われた。『台湾花博博物館』で見ることができる

嘉義のご当地グルメ「鶏肉飯」。鶏肉にネギ入りの香ばしいタレをかけたご飯は台湾名物だが、嘉義では七面鳥でいただくのが定番

台中の「第四信用合作社」のアイスクリーム。レトロ空間で、多彩なアイスにトッピングを追加できるサンデーが人気

夜が深まると、無数のランタンが柔らかに光り、会場を幻想的に包む。台湾最大の光の祭典「台湾ランタンフェスティバル in 嘉義」の幕開けだ。

旧正月の街に灯るランタンは、春の訪れを祝う旧暦1月15日の元宵節に頂点を迎える。2026年は3月3日。嘉義での点灯式には総統の頼清徳氏も出席し、メインランタンに灯がともされた。祭りは元宵節に赤いランタンを手を街を歩く伝統から生まれた。地域文化をテーマとし、灯籠にテクノロジーや現代アートが重なり、台湾を代表するイベントとして毎年、開催都市を変えながら続く。

今年の舞台、嘉義県は阿里山、雲嘉南濱海、西拉雅 (シラヤ) への玄関口。自然豊かな土地柄を生かしたメインランタンのテーマは「光沐-世界的阿里山」。樹齢1000年の神木を模した幹の周りを太陽の輪がゆっくり回る。霧が木を潤し、スクリーンには生命と文化の歩みが壮大なスケールで映し出されていく。

会場には国内外のアーティストの作品も並ぶ。竹を素材にした大型インスタレーションで知られる嘉義出身の王文志氏は、約7000本の竹を編み上げた農夫の帽子を思わせる没入型作品を発表。「多くの人が集まるこの場所で作品を見てもらえることが嬉しい。中を歩き寝転がり、心地よさを感じてもらいたい。人と自然、人と人をつなぐ媒介になれば」と語った。

日本からは青森のねぶた師、林広海氏と諏訪慎氏が、式典開幕の1か月前から嘉義に滞在した。媽祖や虎爺をモチーフにした巨大灯籠「台日共鳴 天妃神」を制作。「一番見てほしいのは顔。ねぶたは顔が命」と林氏。「台湾の人々には神様の明確なイメージがある。それを壊さないよう地元の寺院 (配天宮) を何度も訪れて研究した」と諏訪氏。鮮やかな色彩と迫力ある造形が来場者の視線を集めていた。



現役のねぶた師が協力して作品を手がけるのは初の試み。見物客が列を作り、日台文化交流への関心を窺わせた

伝統とテクノロジー、信仰とアート、歴史や祖先への敬意、土地の記憶。さまざまな要素が混ざり合い、ひとつの光景をつくる台湾ランタンフェスティバルは、そんな伝統文化の象徴なのだ。嘉義の夜空を彩る灯りは、レガシーを未来へ手渡す光として静かに輝いていた。

2026台湾ランタンフェスティバル
https://2026taiwanlanternfestival.org/jp/

2027台湾ランタンフェスティバル、苗栗での開催が決定!
2027年の開催期間は、2月20日 (旧暦1月15日の元宵節) から3月7日までの16日間。会場は、苗栗高铁特定区 (後龍) および周辺地域が予定されている。16年ぶりに苗栗へ戻る光の祭典に注目したい。

これから注目の「光」のイベントスケジュール



「野柳石光-野柳ライトアップ プレミアナイト 2026」

新北市の野柳地質公園で、世界的なデザイン賞や観光賞を多数受賞した幻想的なライトアップイベントが開催される。波の浸食が生み出した「女王頭 (クイーンズヘッド)」が光に包まれる姿は、まさに自然と芸術の融合といえる。世界が認めたその圧倒的な美しさを、夜間限定で鑑賞できる貴重な機会だ。2026年6月28日~7月12日開催予定。前日の6月27日には、台湾観光庁と日本旅行業協会 (JATA) の共催により、旅行会社ツアー限定の特別イベントが開催される。世界的な評価を誇る奇跡の景観を、この機会に体験したい。

「澎湖国際海上花火フェスティバル」

本島の南西、嘉義の沖に位置する離島・澎湖諸島で行われるビーチリゾートの花火大会。歴史的名所である観音亭公園とそのシンボルである西宮虹橋、美しい入り江を、華やかな花火とドローンショーが引き立てる。その他、澎湖の離島などでも開催。2026年5月4日から8月25日 (特定曜日のみ) 開催予定。離島ならではの開放感と美しい夏の風情を心ゆくまで楽しめる。

次号予告 marie claire 5月28日刊行です

28th May, 2026

shop list 掲載商品のお問い合わせ先

ア アズレリア tel: 0120-220-415
アムラ tel: 0120-090-030
アルペンローゼ tel: 0120-88-7572
Histoire d'Or web: www.histoiredor.com/fr_FR
ヴェレンティノ インフォメーションデスク tel: 03-6384-3512
ヴェレダ・ジャパン tel: 0120-070601
MTG tel: 0120-467-222
エルメスジャパン tel: 03-3569-3300
OSAJI tel: 0120-977-948

ク グッチ クライアントサービス tel: 0120-99-2177
クリスチャン ディオール tel: 0120-02-1947
ケラスターゼ tel: 03-6911-8333
Zag Bijoux web: zagbijoux.fr
ジバンシィ ジャパン tel: 0120-218-025
シャネル カスタマー ケア センター tel: 0120-525-519
ジョンマスターオーガニック tel: 0120-007-217
ジルサンダー・ジャパン tel: 0120-998-519
SNOW FOX SKINCARE tel: 076-413-8302

セリーヌ ジャパン tel: 03-5414-1401
セルヴォーク tel: 03-5774-5565
Thomas Sabo web: www.thomassabo.com/INT/en/home
パナソニックお客様ご相談センター tel: 0120-878-365
バルファン・クリスチャンディオール tel: 03-3239-0618
ハレンシアガ クライアントサービス tel: 0120-992-136
フェンディ ジャパン tel: 0120-001-829
プシュロン クライアントサービス tel: 0120-230-441
ブラダ クライアントサービス tel: 0120-45-1913

プリオーニ クライアントサービス tel: 0120-200-185
ブルーベル・ジャパン ファッション事業本部 tel: 03-5413-1050
ポッテガ・ヴェネタ ジャパン tel: 0120-60-1966
ホル & ジョー ボーテ tel: 0120-766-996
ミルボンお客様窓口 tel: 0120-658-894
MODDO tel: 03-5875-8106
ルイ・ヴィトン クライアントサービス tel: 0120-00-1854
ロペペ ジャパン クライアントサービス tel: 03-6215-6116
ロクシタンジャパン カスタマーサービス tel: 0570-66-6940



Welcome to Our Site!



「marie claire」LINE公式アカウントはこちら

marieclairejapan.com

台湾観光の情報は
こちらから



協力: 台湾観光庁

※台湾へはフラッグキャリア、チャイナエアラインで。成田からは6便、羽田からは2便が毎日運航中。